

塩尻総合学科新校施設整備基本計画策定支援業務委託プロポーザル

現地説明（令和8年8月30日実施）での質問・回答

長野県教育委員会事務局
高校教育課高校再編推進室

実施区分	No.	質問	回答
午前	1	農業関係の搬出入など、大型車両が寄り付く必要がある場所や動線を示してほしい。	農業関係の搬出入は、敷地中央を南北に通る構内道路を主動線として利用しています。同道路は大型トラックや観光バスの進入経路でもあり、校内では「メインストリート」と呼ばれています。来客用駐車はロータリー周辺を利用し、職員用駐車場は敷地内に分散配置されています。
午前	2	ミルクプラント、温室作業室は現在使用していないという理解でよいのか。	現在の利用実態は以下のとおりです。 ・ミルクプラントはボイラー室として利用 ・温室作業室は土壌調整・殺菌作業スペースとして利用
午前	3	資料に示された既存建物の延べ床面積15,308㎡、新設面積上限約6,400㎡、整備後の延べ床面積上限13,737㎡の関係について、既存で残る面積を差し引いた約5,000㎡と6,400㎡との差をどのように考えればよいのか。	面積に間違いがありましたので、以下のとおり修正します。併せて、要領の該当部分を修正し再度掲載します。 ・現状延床面積 15,308㎡-83㎡（43倉庫）=15,225㎡（開放性のある渡り廊下、自転車置場等は除く） ・新築面積（上限） 6,582㎡（開放性のある渡り廊下、自転車置場等は除く） ・除却対象面積 別冊資料1の表のとおり
午前	4	北側駐車場は日常的に使用しているか。また、西門・北門の利用状況はどのようになっているか。	北側駐車場は教職員が日常的に利用していますが、駐車台数は多くありません。入学式や文化祭、卒業式、会議等で来校者が多い場合に活用しています。西門は車両の進入がしやすく、教職員の通勤や来客時の出入口として利用されています。北門前面道路は幅員が狭く、一方通行であることに加え、小学校の通学路にも指定されています。このため、臨時的利用として、入学式や卒業式等の来校者が多い際には、西門から入場し北門から退出する一方通行の運用を行っています。
午前	5	要領別冊資料2で示された建物のうち、対象部分はすべて残すという理解でよいのか。	貴見のとおりです。
午前	6	複数の駐輪場は、生徒用・教職員用または学年別など、どのように使い分けているか。まとめてしまっても問題はないか。	現状は学年ごとに駐輪場所を指定しています。駐輪場については、建物配置やアプローチ計画等との整合を踏まえ、合理的な配置が可能であれば集約化を検討できると考えます。
午前	7	生徒の主な登下校動線は東門という認識でよいのか。	東門は通常閉鎖されていることから、生徒の出入りには使用していません。生徒は主に正門や西門を利用しています。一部生徒は、閉鎖している東門の脇から出入りしています。
午前	8	詳細な敷地図・建物図面や敷地内の高低差が分かる資料を提供してもらえるか。	今年度中に敷地測量を実施予定です。成果品の整理後、提供可能となるため、共有可能な段階で改めて回答します。
午前	9	現在使用していないミルクプラントや倉庫等について、建替え後も同じ機能を整備する必要があるか。	ミルクプラントは現在ボイラー室として使用しています。ミルクプラントとしての機能は不要ですが、現状の機能を確保する必要があります。あわせて、倉庫として利用している既存棟についても必要性は認められますが、保管物品の整理や運用の見直しにより、必要面積の縮減や機能の集約化を図る余地はあると考えます。
午前	10	畑の一部を部活動で使用しているが、グラウンド整備に必要な面積として当該部分も確保する必要があるか。	現在、畑の一部を部活動に使用していますが、当該用地は農地として活用することを前提としており、グラウンド整備における確保対象用地とはしていません。
午前	11	更衣室は全校生徒が体育の授業で使用するものか、それとも運動部の生徒が使用するものか。	体育の授業時に使用する更衣室です。部活動における更衣は主に部室を使用していますが、部室が手狭な場合などには、一部の生徒が本更衣室を使用することもあります。

塩尻総合学科新校施設整備基本計画策定支援業務委託プロポーザル

現地説明（令和8年8月30日実施）での質問・回答

長野県教育委員会事務局
高校教育課高校再編推進室

実施区分	No.	質問	回答
午前	12	28番の機械室に隣接するキュービクルは特別教室用か、敷地全体に係る設備か。また、残置の可否はどうか。あわせて、敷地への電源引込みと敷地内の取り回しを示してほしい。	電気は、西門付近から受電し、「28機械室」西側に隣接する第1キュービクルへ引き込み、第1キュービクルを経由し、「1管理教室棟」と「4管理棟」の間に設置された第2キュービクルへ高圧配電を行っています（埋設配管）。両キュービクルは校内全体への電力供給に関わる基幹設備であり、敷地全体に影響する設備です。 受変電設備の移設は、要否を含めて、基本計画内で電力供給機能の維持、関係機関との協議・手続き、事業費及び工程への影響等を総合的に勘案し、事業予算の範囲内で合理的に実施可能な計画を検討してください。
午前	13	渡り廊下の移動環境はどのような状況か。また、移設・伐採等を避けるべき記念樹はあるか。	当地は積雪量こそ多くないものの、冬の冷え込みが厳しい地域です。また、渡り廊下の距離も長いので、生徒は冬季の校舎間移動時に防寒着を着用することがあります。移設・伐採等を避けるべき記念樹はありません。
午前	14	隣接する小学校や近隣地域との交流はどのように行われているか。	隣接する桔梗小学校児童（主に3年生）が春に芋、夏～秋にとうもろこし、大根等の収穫に来ています。（年間5～6回）また、「産業社会と人間」の授業で、書道部が指導等で交流するなど、年間10回程度の交流の機会を設けています。今後は、市内中学校との連携も進め、小中高の連携強化を図るとともに、必要に応じて時間割の調整を含めた教育活動の展開について検討する予定です。
午前	15	統合相手校（田川高校）から新校に組み込む必要がある諸室・設備等や、相手校の校舎配置図を提示してほしい。	統合対象校（田川高校）から新校の施設整備に反映すべき諸室や設備はありません。ただし、記念碑等の継承が必要な構造物等については、移設の要否を今後検討します。参考として、田川高校の校舎配置図を提供します。
午前	16	ワークショップに期待していることは何か。また、教職員の意見聴取はどのように想定しているか。	地域、生徒及び教職員等から意見を収集し、新校における施設整備及び学校づくりの方向性の検討に活用することを期待しています。ワークショップは対象者や目的に応じた多様な形態を想定し、学校づくりに資する意見の収集、整理及び分析を行うことを求めます。ただし、諸室の面積及び必要数については先行事例等を踏まえ検討可能であることから、ワークショップでは主として施設利用や学校づくりの方向性に関する意見収集を行うとともに、参加者の新校に対する理解促進や利用イメージの醸成、新たな活用方策の発見につながる場となることを期待しています。
午前	17	畑等の現状の作付面積・利用状況と、今後増やしたい・減らしたい作物や用途について、ブロック図程度で示してほしい。	面積は配置図のとおりです。
午前	18	混合教室棟の耐震補強の状況について伺いたい。	当該建物は昭和60年建設であり、新耐震基準による建物です。これまで耐震補強工事等は実施していません。
午後	1	文化部室棟付近の2か所の駐輪場は、他の駐輪場と同じ扱いか。	駐輪場は既存施設を活用する方針ですが、全体計画や事業費との調整により、必要に応じて再整備も可能と考えています。（事業予算内での対応）
午後	2	総合学科では同時に多くの授業が展開されるが、現状および新校における教室数・稼働率をどのように想定しているか。	新校に設置する系列は現在検討中であり、年内を目途に決定した後、教育課程の素案を検討する予定です。総合学科は普通科と比較して同時展開する授業数が多くなる見込みですが、現時点では新校における必要教室数及び諸室稼働率をお示しすることはできません。なお、現校では7系列を設置しており、同時展開授業数は最大33講座、平均29講座程度となっています。新校の必要教室数については、今後決定する系列構成や教育課程の検討結果に加え、これらの運用実績も踏まえて検討します。現状の諸室稼働率は別添資料のとおりです。
午後	3	ワイン醸造・食品加工等の諸室は、一つのまとまりとして整備する必要があるか。それとも複数のゾーンに分けられるか。	現在、ワイン醸造に係る機能は2棟に分散して配置されており、食品衛生法及び酒税法への適法性を整理する必要があります。事務局としては、関係法令に適合し、効率的かつ効果的な学習環境を確保できる提案を求めます。なお、ワイン・食品関連諸室を集約し、他の農業関係諸室と分離して配置することは可能です。
午後	4	敷地内の高低差や建物改修の検討に使える資料を提供してほしい。	敷地内の高低差に関する測量成果及び既存施設に関する資料については、契約後に提供します。

塩尻総合学科新校施設整備基本計画策定支援業務委託プロポーザル

現地説明（令和8年8月30日実施）での質問・回答

長野県教育委員会事務局
高校教育課高校再編推進室

実施区分	No.	質問	回答
午後	5	2年次以降のホームルームは系列ごとに編成するのか、それとも複数系列の生徒が同じクラスに在籍し、授業時に分かれるのか。	クラス編成を含めた運営条件は今後学校と協議のうえ整理します。なお、検討の参考となる提案をいただくことは可能です。
午後	6	現在の地域と高校との関わり、新校に向けた地域連携の取組について、具体例を示してほしい。	現在、地域連携コーディネーターを配置し、統合対象校を含めた地域連携事業や、地元企業と連携した先端技術に関する学習を実施しています。新校においても地域連携への要望は高く、地域連携協働室を拠点とした活動の展開を想定しています。
午後	7	将来の施設配置提案において、現在「活用」とされている施設のうち、将来的な解体可能性等を踏まえ、対象から外してよいものがあるか。	現時点で対象外とできる施設はありません。
午後	8	中庭・インターロッキング部分の利用状況はどうか。また、新校では一足制と二足制のいずれを想定しているか。	現状は、生徒が上履きのまま中庭、インターロッキング舗装部及びアスファルト舗装部へ出入りしています。新校の履き替え方式（一足制・二足制）は未定であり、学校運営、動線計画、維持管理等を踏まえた全体計画を求めます。なお、検討の参考となる提案をいただくことは可能です。
午後	9	雨風の強い日や冬季における渡り廊下の使われ方、傘の使用や雨の吹込み対策はどうなっているか。	渡り廊下で傘を使用する状況はほとんどなく、雨の吹込みが生じやすい箇所には防風・防雨カーテン等の対策を講じています。
午後	10	外部の方からの支援が多いと思うが、セキュリティ確保の考え方について伺いたい。	外部人材や地域との連携を想定していることから、生徒エリアと外部利用エリアのゾーニング、来校者管理、アクセス制御、見守り性の確保等を踏まえ、生徒及び教職員の安全確保と地域連携の両立が図られる施設計画が望ましいです。
午後	11	生徒の登下校時の主な動線を改めて確認したい。	「午前No.7」とおり、主な出入口は正門及び西門であり、車両は主に西門から進入しています。東門及び北門は通常閉鎖しており、北門は一部の生徒が徒歩で利用するものの、利用頻度は高くありません。
午後	12	教職員駐車場の配置・利用状況と、日常の駐車台数を示してほしい。	駐車場は、ロータリー周辺、体育研究室前、1棟・2棟間の砂利敷部分及び各専門施設周辺の空地を利用しています。北側駐車場は学校行事等の際に開放していますが、日常的な利用は限定的です。なお、区画された駐車場ではなく、敷地内の空地を活用した運用が中心となっています。